



読字原田 報

No. 850

2018/1/15

中日友好新聞

発行所
日本中国友好協会
〒113-0033 東京都文京区
西神田1-1-1 東洋ビル3階

日中友好協会
岡山支部
〒703-8236
岡山市東区3-8-30 511
TEL:086(272)-3010
郵便番号119
01250-0-3835

日中友好協会
倉敷支部
〒713-8511
倉敷市連島中央1-8-1
(宮地方)
TEL/FAX:086(446)-2711

日中友好協会岡山支部ホームページ
<http://rizhong.biz/>
メールアドレス
rizhong86@hotmail.co.jp



9条を変えると

世界の人々から信用を失う！

中国帰国者 今岡愛子

2017年11月23日、操南地域九条の会総会と学習会に初めて参加しました。とても有意義な会だと思いました。

みなさんと一緒に歌を歌ったり、交流をしました。その後、則武弁護士が「安倍9条改憲を切る」と題して、わかりやすく解説してくれました。

則武弁護士の講演を通して、

憲法9条の大切さを理解しました。そして、憲法9条を守る活動は非常に意義のあることだと思いました。

私がすごく感動したことは2つあります。一つは、改憲についての朝日新聞の世論調査です。この調査結果をみると、なぜ男性と若い世代の賛成が多かったのか？私はずいぶん前に考えたことか？若い世代の人は憲法9条の大切さを理解していない、そして、日本の経済高度成長を経て、豊かな暮らしをしています。その親たちも戦争の経験がない。学校でそういう教育も少ない、戦争の怖さを知らないと思います。男の人は単に英雄になりたいたい、戦いが好きかもしれない。女性なら、子供のことが第一、命を懸けて生まれた子供には危ない目に合わせたくはないと思います。私が思っている憲法9条は、敗戦をしてから日本の国民を二度と戦争に巻き込みたくはない。

だから「戦争を放棄する」「戦力を放棄する」と堂々と世界に宣言し、約束をしました。もし憲法9条を変えたら、その約束を破ることになります。世界の人々から信用を失います。やつてはいけない事だと思えます。

政治家は、歴史を直視し五つの言葉(自由、平和、公正、正義、規範)の重みを理解してほしい

二つめは、1985年5月8日、ヴァイツェッカー大統領のドイツ敗戦40周年記念演説です。演説は3つに分かれています。

(1) 過去に目を閉ざす者は結局のところ現在にも盲目となります。非人間的な行為を心に刻もうとしないものはまたそうした危機に陥りやすいのです。

歴史を直視しないと歴史をも一度上演する可能性が大きいです。例えば南京大虐殺問題、慰安婦問題など目を閉じて、認めない、謝らない、いつも隠そうとしている、本当に盲目になっています。そうしたら、日、中、韓の関係はよくなると思います。

(2) 若い人たちにはお願いしたい。他の人々に対する敵意や憎悪に駆り立てられることのないように、していただきたい。若い人たちは、たがいに敵対するのではなく、たがいに手をとりあつて、生きていくことを学んでいただきたい。」

ヴァイツェッカーさんが、若い人たちに希望を託した、他人に対して、友好、友善、思いやりのある人になって欲しい、平和な社会を作れるように、がんばって生きてほしい。そうしていいじめのない、利己主義の人がいない社会を作って欲しい。」

(3) 政治家に、自由を尊重しよう、平和のために尽力しよう、公正をよりどころにしよう、正義については内面の規範に従おう。」。国を運営する政治家たちは自由、平和、公正、正義、規範、五つの言葉の重みを理解していますか？この言葉を政治家としてどこまでも貫いて欲しい。それは、国民の暮らしに係る大事なことです。

この演説がドイツ人だけに言う事じゃない、どの国にも通用する理念だと思います。とくに日本では。

2017年10月22・23日

朝日新聞世論調査

安倍首相が意欲を見せる憲法9条に「自衛隊明記」との改正について、安倍政権での改正の賛否を聞くと、反対45%が、賛成36%を上回った。

年代別では、18～29歳は、賛成49%が反対34%を上回った。他の年代では反対のほうが多かった。

特に60代では反対54%に対し、賛成27%だった。男女別では、男性は45%が賛成だったが、女性は28%にとどまった。



左から2人目が今岡愛子さん

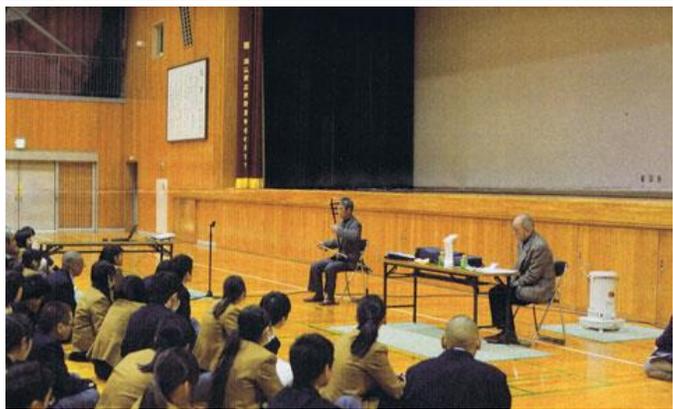


則武弁護士

中国の養父母はとてもやさしい方だ

岡山県立興陽高校 人権教育係 羽賀

12月12日(火)3・4校時に興陽高校体育館で、全校生徒対象の人権教育講演会を開催しました。講師は、日中友好協会岡山支部事務局長の小林軍治先生と元中国残留孤児の高杉久治さんです。最初に小林先生からなぜ中国残留孤児が生まれたかをご説明いただいた後、高杉さんがどのような道を歩まれたのかをお話しくださしました。生徒はメモをとりながら人権問題について真剣に考えることができました。最後には、高杉さんが中国の伝統的な楽器である二胡を演奏してくれました。以下は、生徒の感想のほんの一部です。



二胡の演奏をする高杉さん

生徒の感想

● 残留孤児について知らなかったけど、岡山にそういった人がいることを知って、とても身近なものになりました。

● 中国の人は日本人に土地を奪われたという強い感情を持っているはずなのに、日本人の高杉さんを助けて育ててくれて、その養父母はとても優しい方だと思いました。

● 高杉さんのように小さい頃苦労して生きている人もいるということを知ったので、日頃から感謝

の気持ちを持って過ごしていきたいです。

● 孤児として日本に帰国した高杉さんに対しての国の扱いはあまりにひどいと感じました。そんな大変な状態だったにもかかわらず、第2の生活を見つけられていくのはすごいと思いました。戦争が終わった後でも辛い思いをしている人がいることが分かりました。

● 顔を覚えていなくても会いたくてたまらないくらい、家族は特別な存在だということを知りました。この講演が聴けて良かったです。二胡の音色はとっても心が落ち着く音色でした。ふるさと」の演奏は、高杉さんの想いが乗っているような感じがして感動しました。

歯の健康は健康寿命を延ばす

12月8日(金)、岡山国際交流センターで「中国帰国者に対する健康講座と体験交流会」が開催されました。中国・四国中国帰国者支援・交流センター(広島市)主催で、岡山県から20人が参加しました。

午前中は、岡山市保健所の職員による、歯の健康についてでした。内容は、歯ブラシの選び方、使い方の講習と歯周病予防につい

ての説明でした。参加者からは「入れ歯の手入れ、子や孫にいつから歯ブラシを使わせたらよいか」などの質問が出されました。私は「80歳で20本の割合を聞く」と、平成28年で、51.2%との答えでした。参加者は、持参の歯ブラシで歯を磨き、職員から、「もっとゆっくり」と声をかけられていました。職員は「歯の健康は健康寿命を延ばす」と強調されました。

浅田達雄さんの裁判がようやく結審を迎えました。

障害を抱えながらも、障害者サービスを最大限受けながら、自立した生活、自分らしい暮らしをしていた浅田さんが65歳になったとたん、障害者サービスを打ち切られ、生きていけなくなり、冷たい仕打ちをする岡山市を相手に裁判を起こして、4年になります。やっと、12月6日に結審を迎えました。判決は2018年3月12日になりました。

岡山市は介護保険のサービスマ暮らさないと言います。しかし、障害者サービスと介護保険サービスとは、内容が違い、どちらを選んでも、自分らしい暮らしをするかは憲法に保障された権利です。浅田さんは最後の意見陳

た。

最後に職員から「病院で何か困ることはありませんか」と尋ねられ「言葉の問題」ですとの答えが返ってきました。職員が少し戸惑った表情になったのが心に残りました。

午後は、フラワーアレンジメントを講師の指導のもとに、手と口を動かしながら、楽しく作りました。できた作品を手に持って、記念写真を撮りました。

小林軍治

述で私は岡山市の福祉行政を全面的に頼りにしていました。私は初めて行政が冷酷で人の道を外れたことを平気でやれることを知りました。」と述べています。

一番身近である市政はほとんどは市民に寄り添っていかなくてはならないのだと思います。浅田さんの件は、私には氷山の一角のように思えてなりません。来年、3月12日には、裁判長がどのような判決を出すのか、是非、浅田さんの立場に立って出してほしいものです。

浅田達雄さんを支える会

稲葉泰子



2017/12/

次回の新聞発送作業は1月22日(月)午後1時半から民主会館2階で行います。前回お手伝いくださった方です。

川岡 田林 内井 石 今曾 小竹 坪